

氏名	栗山 靖弘
学位の種類	博士（体育学）
学位記番号	第34号
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位授与年月日	令和5年9月19日
学位論文題目	日本の高校における強豪校野球部員のスポーツ推薦入試による進路形成に関する社会学的研究
論文審査委員	主査 山田 理恵 副査 関 朋昭 副査 森 司朗 副査 金高 宏文

論文概要

本研究は、大学入試におけるスポーツ推薦を高校生の進路形成の仕組みの一形態と捉え、当該試験を利用して進学先が決定するメカニズムを明らかにする。具体的には、ある私立の強豪校野球部を事例として、指導者と部員へのインタビュー調査及び、部員の進路先が把握可能な個別データを用いて、スポーツ推薦を利用した進学先決定のメカニズムを描いていく。

本研究は領域を異にする2つの社会学的なアプローチを必要とするテーマを扱う。第1に、「スポーツ」推薦及び運動部活動を対象とするという意味でのスポーツ社会学的なアプローチである。第2に、スポーツ「推薦入試」という制度と高校生の進路形成を扱うことから、これらに対する研究を蓄積してきた教育社会学的なアプローチである。

これまで、スポーツ推薦入試による大学進学を扱った研究はほとんど行われてこなかった。加えて、進路形成研究の知見を蓄積してきた教育社会学の領域では、「学力」をベースとしたトラッキング研究が中心であった。そのため、「学力」以外を評価基準とした進路形成については明らかにされてこなかった。また、生徒文化研究に連なる進路形成研究においては、さまざまなタイプの高校生像が描かれてきたが、そこでは部活動に熱心に取り組む高校生の姿が見落とされており、運動部活動での競技実績が進路形成の中心になっている高校生については対象とされてこなかった。また、スポーツ社会学を中心としたスポーツ活動と進路の関係を扱った先行研究においては、「運動部活動で身についた資質や能力が進路形成に活かされる」という点については明らかにされてきたが、運動部活動での実績自体が評価されて大学に進学するという現象については扱われてこなかった。さらに、「強豪校」に対するアプローチも十分に研究されているわけではなく、その存立基盤の解明に課題が残されている。

本研究では、これらの先行研究から導かれる研究課題を「スポーツ活動を通じた進路

形成」として捉えることで、高校生の進路形成研究とスポーツと進路研究に新たな知見を加えるものである。

分析の結果、次の点が明らかになった。まず、強豪校野球部員のスポーツ推薦による進学先の大学が、高校と大学の指導間の「人脈」を経由して行われていること、そして、指導者の人脈を通じた進路形成が、強豪校の存立基盤であることが明らかになった。すなわち、強豪校運動部においては、個人の進路形成がその主体である高校生本人だけではなく、指導者を含めた彼らの所属する部活全体で行われているということである。この意味において、強豪校運動部員の進路形成が、部活を通じて行われていることを示した。加えて、強豪校運動部に備わっている進路形成機能自体が強豪校の存立基盤であることを明らかにした。

次に、強豪校野球部の進路指導の詳細を明らかにした。指導者たちは、部員たちに対して、大学での野球継続の意志確認をはじめとした、志望校に関する詳細なヒアリングと進路希望調査を実施することで、部員たちの希望進路を把握していた。そして、具体的な進学先の決定の段階では、指導者の人脈の及ばない大学に対する新規開拓を含めて、進路の決定に取り組む姿が確認された。

また、中学校における学校内の運動部活動だけではなく、学校外のクラブチーム等でのスポーツ活動も、高校卒業後の進路形成を考えるうえで重要な役割を果たしていることがわかった。このことは、学校内外を問わず、「スポーツ活動を通じた進路形成」を捉える視点の重要性が明らかになったことを意味している。学校内（部活動）と学校外（クラブチーム）の両方のスポーツ活動を射程に含めることで、「スポーツ活動を通じた進路形成」研究のフィールドを開拓していくことが可能になることを示した。

ここまでの研究課題を受けて、「スポーツ活動を通じた進路形成」研究の全体像を描くための枠組みとして「競技者トラック」概念を導出した。「競技者トラック」とは「スポーツ活動に取り組む児童生徒が、学力を基準とした進路選択とは別の原理で進路を選択する経路」のことを指している。「競技者トラック」の全体像について、次の4点を議論した。すなわち、第1に、トラックの閉鎖性、第2に、競技者トラックを形成する中核的な制度がスポーツ推薦だということ、第3に、トラックの可視性、第4に、競技者トラックにおける進路形成のリスクについてである。

今後の課題として、内容面での課題と方法論上の課題を述べた。内容面については、指導者の人脈に対する時系列での追跡調査と、競技者トラックと社会階層の関係についての調査が求められる。方法論では、調査規模の拡大と、同一集団の進路形成・進路選択プロセスの追跡調査が求められる。

論文審査の要旨

本論文は、日本におけるスポーツ活動を通じた進路形成について、強豪校とされる高校野球部員の場合に焦点をあて、三つの研究課題を設定して考察したものである。研究課題Ⅰでは、大学入試におけるスポーツ推薦と進学先決定のメカニズムが解明された。研究課題Ⅱでは、運動部に備わる進路形成の機能が強豪校としての存立の基盤となっていることが論じられた。研究課題Ⅲでは、学校外でのスポーツ活動もまた、進路形成のうえで重要な役割を果たしていることが示された。

スポーツ活動と進路形成の関係性について考察するとともに、「競技者トラック」という視点を導き出した点に本論文の独創性があるといえる。しかしながら、本論文の内容をより明確に表すために、論文題目をはじめ加筆・修正が求められた。また、論文審査の過程において、論点の明確化や叙述のしかたについて多角的な観点から審査を行うために、当初人文・社会科学系領域の審査委員で構成されていた論文審査委員会に実践系の審査委員1名を副査に加え、論理の進め方や表現上の修正が求められた。それらの修正事項については、適宜加筆・修正がなされた。

以上のような審査過程を経て、令和5年8月29日、本論文は博士（体育学）の学位論文として合格というレベルに達している、と判断した。